

事業評価結果(課・室)総括表

事業年度 令和8年度
 部局名 未来創造部
 所属名 未来戦略課

(単位:千円)

事業名	福井県長期ビジョン における位置づけ	経費 区分	事業 開始 年度	事業 終了 年度	予算額	決算額	財源内訳			評価区分
							国庫	その他 特定 財源	一般	
長期ビジョン推進事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和元年度	令和11年度	3,521	—		1,000	2,521	継続
SDGs推進事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和2年度	令和11年度	22,202	—	1,556	5,340	15,306	継続
ふくい政策デザイン推進事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和2年度	令和10年度	2,695	—			2,695	継続
政策立案のためのデータ分析・調査委託事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和7年度	令和11年度	4,267	—	2,133		2,134	継続
政策企画調整費	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和元年度		6,000	—			6,000	継続
ふくいブランド戦略推進事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和5年度	令和11年度	11,563	—			11,563	その他
幸福実感推進事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和6年度	令和11年度	20,058	—	1,866		18,192	継続
首都圏における交流拡大事業	11 ふくい型移住・定住の促進	政策的経費	令和2年度	令和10年度	1,670	—			1,670	継続
東日本をターゲットとした巡回キャラバン事業	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化	政策的経費	令和4年度	令和9年度	30,374	—			30,374	継続
県産商品を活用した海外誘客促進事業	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化	政策的経費	令和6年度	令和8年度	9,400	—	4,700		4,700	その他
ゆかりの店情報発信拠点化事業	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化	政策的経費	令和8年度	令和10年度	731	—			731	—
嶺南振興プロジェクト枠予算	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和元年度	令和8年度	170,000	—			170,000	継続
三方五湖エリア広域バス運行支援事業	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和3年度	令和8年度	4,482	—	2,241		2,241	継続
敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進事業	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和7年度	令和11年度	49,415	—	24,707		24,708	拡充
嶺南地域産業育成支援事業	10 交流を広げる基盤整備	—	平成30年度	令和11年度	105,325	—	61,621		43,704	継続
若狭湾サイクリングルート整備事業	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化	政策的経費	令和3年度	令和8年度	87,163	—	21,369		65,794	拡充
先進技術活用による地域開発プロジェクト	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和6年度	令和7年度		—				廃止
令和7年度将来世代応援知事同盟サミット福井開催事業	17 「チームふくい」の行政運営	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				完了
大阪・関西万博子ども招待事業	1 自らと福井の将来につなげる学びの推進	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				完了
外国人観光客への敦賀・若狭エリアPR事業	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				完了
SNSを活用した敦賀・若狭エリア宿泊滞在促進事業	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				完了
敦賀・若狭アウトドアアクティビティブランド化事業	10 交流を広げる基盤整備	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				整理統合
					528,866		120,193	6,340	402,333	

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
5 ともに進める（総合力）				経費区分	政策的経費
17 「チームふくい」の行政運営				事業開始年度	令和元年度
長期ビジョン推進事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	令和2年7月に策定した福井県長期ビジョンが目指す将来像を県民が共有し、「チームふくい」で実現するため、県民に広く長期ビジョンを周知するとともに、ビジョン実現に向けた県民活動を促進する				
事業内容	(1) 長期ビジョン推進懇話会の開催 (2) 県民アンケートによる県民意識調査の実施 (3) ワークショップ等の開催 (4) チャレンジ政策提案に関する必要経費の支援				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,521			1,000	2,521
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	ワークショップ等の参加者（人）	3,000		令和7年度
	活動指標	ワークショップ等の開催（回）	30		令和7年度
事業評価	7年度の実績はR8年3月末に確定する予定。 2月末時点でワークショップ等を34回開催、参加者数は延べ4,965人であり、目標を達成できた。				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度	
5	ともに進める（総合力）		経費区分	政策的経費	
17	「チームふくい」の行政運営		事業開始年度	令和2年度	
	SDGs推進事業		事業終了年度	令和11年度	
事業目的	県民が主役となり、持続可能で多様性のある社会を実現するため、SDGsの理念を県民に普及するとともに、その達成に向けた行動を促進する。				
事業内容	(1) SDGsの普及啓発 (2) 地域課題解決に向けたパートナーの連携・協働の促進				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	22,202	—	1,556	5,340	15,306
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	SDGsパートナーシップ会議参加企業・団体（団体）	1,400		令和7年度
	活動指標	県・民間団体の活動内容の広報	100		令和7年度
事業評価	7年度の実績はR8年3月末に確定する予定 2月末時点のSDGsパートナーシップ企業・団体は1,460社・団体であり、成果目標を達成した。				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度	
5	ともに進める（総合力）		経費区分	政策的経費	
17	「チームふくい」の行政運営		事業開始年度	令和2年度	
	ふくい政策デザイン推進事業		事業終了年度	令和10年度	
事業目的	長期ビジョンに掲げる「デザイン力を活かした政策推進」のため、過去の経験や政策事例によるのではなく、クリエイターと協働することでデザイン思考により県民目線に立った政策立案を進め、より質の高い政策立案を目指す。				
事業内容	(1) 政策デザイン「共創」 真の課題を見直し、クリエイターが担当課に長期間伴走しながら政策立案 (2) 政策デザイン「共考」 複数のクリエイターと課題を再整理する短期的なワークショップの実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,695				2,695
事業評価指標		内 容	目標	実績	備考
	成果指標	ブラッシュアップした事業（件）	17	17	令和7年度
	活動指標	相談件数（件）	30	43	令和7年度
事業評価	幅広いテーマでの相談を募るとともに、相談ワークショップの運用を改善（事前の課題整理や伴走支援の強化）し、成果指標および活動指標の目標値を達成				
区分	継続				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
5 とともに進める（総合力）				経費区分	政策的経費
17 「チームふくい」の行政運営				事業開始年度	令和7年度
政策立案のためのデータ分析・調査委託事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	データ分析スキルをもつ外部人材やデータ分析、地域活性化等を学ぶ大学生を活用し、福井県をフィールドとした人口減少の実態などの調査分析およびデータに基づく効果的な対策の提案を受けることにより、EBPMの手法に基づく新たな政策を立案・実行する。				
事業内容	(1) 人口減少対策に関する本県特有の要員や構造的課題の調査分析 (2) 幸せ実感・ウェルビーイング向上のための調査分析、共同研究の実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	4,267	—	2,133		2,134
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	政策提案（件）	4		令和7年度
	活動指標	大学等と連携した調査分析（件）	4	4	令和7年度
事業評価	7年度の成果指標実績はR8年3月末に確定する予定。 県内従業員の就業状況と男女賃金格差に関するアンケート調査・分析や、地域幸福モデルに関する県民アンケート結果の分析など、4つの大学との共同研究等を実施し、活動指標は目標を達成した。				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度	
5	ともに進める（総合力）		経費区分	政策的経費	
17	「チームふくい」の行政運営		事業開始年度	令和元年度	
	政策企画調整費		事業終了年度		
事業目的	新たな情報収集と政策づくりの仕組みの構築や、政策参事会などでの部局横断的な検討の推進等により、政策課題の解決や全国のモデルとなる先進施策を立案する。				
事業内容	(1) 政策企画コーディネーターの活用 (2) 政策会議の実施 (3) 政策参事会の実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,000				6,000
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標		—	—	
	活動指標		—	—	
事業評価	課題に対応するための意見交換等を実施する事業であり、目標の設定にそぐわない。関係部局と連携し、政策課題を解決する施策立案に努める。 7年度は、政策企画コーディネーター徳南氏の企画により、南青山291にておけるブローウィングスのパブリックビューイングを実施し、東京在住の若者に福井県のPRを実現。このほか、ホテルや企業の誘致活動を実施中。				
区分	継続				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度
5 ともに進める（総合力）				経費区分	政策的経費
17 「チームふくい」の行政運営				事業開始年度	令和5年度
ふくいブランド戦略推進事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	福井県ブランド戦略の活動方針「千年文化を未来へ」のもと、福井の良さを語り、学ぶことで地域の自己肯定感を高めるような県民参加型のプロジェクトを実施し、県民のふるさとへの自信と誇りを醸成することにより官民あげたブランド展開につなげていく。				
事業内容	福井の歴史、文化、自然、産業、暮らし等を題材とした中学生対象のクイズ大会の実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,563	—			11,563
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	「住んでいる地域をおすすめできる」県民の割合（％）	34	30.4	令和7年度
	活動指標	民間企業等と連携したプロジェクト（件）	1	1	令和7年度
事業評価	令和7年9月実施の県民アンケートによる「住んでいる地域を、県外在住者に自信をもっておすすめできる」と回答した人の割合は、目標を達成できなかった。この実績は令和7年度事業途中に実施したアンケートの結果であり、令和6年度事業の結果を受けているものと推察される。令和6年度事業は参加者が限定的な内容であり、訴求範囲が狭かったため、成果指標の向上に寄与しなかった。については、目標達成に向け事業内容の見直しを図る。				
区分	その他				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
5 とともに進める（総合力）				経費区分	政策的経費
17 「チームふくい」の行政運営				事業開始年度	令和6年度
幸福実感推進事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	本県は客観・主観双方の幸福度で全国トップであり、ウェルビーイングの実践の場として魅力的なフィールドになっている。こうした機会を捉えて、官民共創による組織「ふくウェル」を設置し、県民の幸福実感を高めるプロジェクトの推進と進化を図る。				
事業内容	(1) 官民共創の組織「ふくウェル」の設置 (2) 民間の知見を有するウェルビーイングコーディネーターの配置				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	20,058	—	1,866		18,192
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	県民の主観的幸福度の平均値	7.1	7.0	令和7年度
	活動指標	民間企業等と連携した幸せ実感プロジェクトの企画(本)	5		令和7年度
事業評価	7年度の活動指標実績はR8年3月末に確定する予定。 令和7年7月実施の県民アンケートによる県民の主観的幸福度の平均値は前年度より0.07ポイントアップし、概ね目標を達成した。				
区分	継続				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	政策的経費
1 1 ふくい型移住・定住の促進				事業開始年度	令和2年度
首都圏における交流拡大事業				事業終了年度	令和10年度
事業目的	福井への企業誘致、観光誘客、U I ターンや販路拡大につなげるため、首都圏における企業・マスコミ等や県内出身学生とのネットワーク強化を図る。				
事業内容	(1) 福井県勤務経験者、福井県出身学生等と協力した福井県の魅力発信 (2) コミュニティ型ワークスペースなどを活用した人的ネットワークの構築				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,670	—			1,670
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	県勤務経験者や県出身学生とのネットワーク構築（人）	100	165	令和7年度
	活動指標	福井県勤務経験者等との交流会、イベント回数（回）	3	5	令和7年度
事業評価	企業・マスコミ等の交流会も定期的に行われ、活発な意見交換、情報共有が図られている。学生等若者ネットワークは活性化されつつあり、例年の交流会の開催だけでなく、新たな交流会開催やイベント出展などにより、活動目標、成果目標ともに目標を超えて達成した。				
区分	継続				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	政策的経費
9 北陸新幹線効果を最大化・持続化				事業開始年度	令和4年度
東日本をターゲットとした巡回キャラバン事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	東日本各地で福井県関連の物産展およびイベントへの出展を実施することにより、継続的に福井県の魅力を発信し、認知度を高めるとともに本県への誘客促進を図る。				
事業内容	地元メディア、SNSのインフルエンサー、福井県アンテナショップの物販部門と連携し、東日本各地で継続的に福井関連の観光物産展、地域イベントへの出展等を実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	30,374	—			30,374
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	マスコミ等による露出度（千人）	10,000	13,000	令和7年度
	活動指標	イベント等開催回数（回）	8	15	令和7年度
事業評価	7年度の実績はR8年3月末に確定する予定ではあるが、地方紙への複数回掲載、地元テレビ局の取材、SNSによる投稿などにより成果目標を上回って達成した。活動指標も目標を達成。				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度	
3	楽しみを広げる（創造力）		経費区分	政策的経費	
9	北陸新幹線効果を最大化・持続化		事業開始年度	令和6年度	
	県産商品を活用した海外誘客促進事業		事業終了年度	令和8年度	
事業目的	既存商品の高付加価値化を行い、シンガポールにおいて販売するとともに、福井県の観光情報の発信や旅行商品の販売等を合わせて行うことにより、「モノ」を起点としたインバウンドの増加につなげる。				
事業内容	(1) 県産商品の開発およびシンガポールにおける販売 (2) シンガポールにおける福井県観光情報の発信および旅行商品の販売等				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	9,400	—	4,700		4,700
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	シンガポールからの宿泊客数（人）	2,600	2,620	令和7年度
	活動指標	福井フェア出品事業者数（社）	9	13	令和7年度
事業評価	<p>成果指標は速報値。 ルミネシンガポール店にて福井フェアを8月に開催し、JR東日本のインバウンド拠点施設である「JAPAN RAIL CAFE」シンガポール店においても観光情報の発信等を行った。 また、令和7年の宿泊旅行統計調査（観光庁）の速報値によると、シンガポールからの宿泊者数も増えており、成果指標、活動指標ともに目標を超えて達成した。</p>				
区分	その他				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	政策的経費
9 北陸新幹線効果を最大化・持続化				事業開始年度	令和8年度
⑨ ゆかりの店情報発信拠点化事業				事業終了年度	令和10年度
事業目的	都内にある福井ゆかりの店等に対し、更なる福井県の認知度向上や誘客促進につなげるため、本県のパンフレット提供等を通じた情報発信を行う。				
事業内容	(1) 本県のポスター、パンフレットの送付 (2) 本県情報をまとめたサイトのQRコード付きアクリルスタンド、ポストカードの配布				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	731	—			731
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	QRコードからの県HPアクセス数（回）	6,240	—	令和8年度
	活動指標	パンフレット等設置協力店舗数（店）	32	—	令和8年度
事業評価					
区分	新規				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	政策的経費
10 交流を広げる基盤整備				事業開始年度	令和元年度
嶺南振興プロジェクト枠予算				事業終了年度	令和8年度
事業目的	北陸新幹線福井・敦賀開業効果の嶺南全域への波及や、大阪までの早期全線開業等に向け、嶺南振興局の独自予算により、観光振興等の地域課題に対し、迅速に対応する。				
事業内容	(1) ハード枠 (2) 政策トライアル枠				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	170,000	—			170,000
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	翌年度事業に反映した政策トライアル枠活用事業数	2	2	令和7年度
	活動指標	ハード枠の実施件数	22	23	令和7年度
政策トライアル枠を活用した事業数		3	2	令和7年度	
事業評価	ハード枠については、観光地周辺の道路補修や景観整備等を実施した。政策トライアル枠については、主に「若狭湾プレミアムリゾート構想」を推進するための事業2件を実施し、いずれも令和8年度当初予算において予算化した。				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度	
3 楽しみを広げる (創造力)			経費区分	政策的経費	
10 交流を広げる基盤整備			事業開始年度	令和3年度	
三方五湖エリア広域バス運行支援事業			事業終了年度	令和8年度	
事業目的	北陸新幹線開業効果を高めるため、旅行者の移動手段として三方五湖エリアにおいてゴイチバスを令和6年3月から本格運行しており、新幹線で来県する観光客の足として誘客促進に効果を発揮している。開業後の敦賀以西への誘客が課題であるため、ゴイチバスの運行を支援し、広域的な周遊促進を図る。				
事業内容	(1) バスの運行支援 (2) 利用促進対策支援 (3) 利用状況調査支援				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	4,482	—	2,241		2,241
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	1日当たりのバス利用者 (人)	120	67.8	令和7年度
	活動指標	運行本数 (本)	468	432	令和7年度
事業評価	<p>運行ルートと便数を見直したことで、より効果的な運行につなげることができた。 目標未達成の要因：来県者への広報が不足していた。 令和8年度には、旅前の方向けにWEBを活用した広報活動を強化する。 外的要因：運転手や車両の確保等、バス事業者の準備が整わなかったため。</p> <p><実績> 便数：6便/日 利用者数：4,885人 1便あたりの利用者数：11.3人 (令和6年度の1.4倍)</p>				
区分	継続				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度	
3	楽しみを広げる（創造力）		経費区分	政策的経費	
10	交流を広げる基盤整備		事業開始年度	令和7年度	
	㊦ 敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進事業		事業終了年度	令和11年度	
事業目的	国内外から観光客を誘客できるリゾートエリアの形成を目指し、リアス海岸の多様な自然や景観を楽しめる若狭湾エリアに、リゾートホテルやオーベルジュ等の客単価の高い宿泊施設等を整備・運営する計画を民間事業者から公募し、若狭湾エリア全体の魅力アップを目指す県・6市町連携プロジェクト				
事業内容	ホテル誘致の促進に必要な対策として令和8年度は下記の事業を予算化して実施 (1) 候補地紹介動画の制作、温泉開発可能性調査の実施 (2) ホテル誘致や不動産取引、法律等の専門家の活用 (3) 優先交渉権者を決定した県有地の不動産鑑定、地積測量等				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	49,415	—	24,707		24,708
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	優先交渉権者選定件数（件）	6	3	令和7年度
	活動指標	公募対象地の箇所数（か所）	18	12	令和7年度
事業評価	指標の目標は令和11年度までの目標値。 6市町から多様な景観を選定し、紹介動画制作や温泉湧出可能性調査、マッチング支援などを通して、今年度は12か所の公募対象地でホテル等の整備・運営計画を募集した結果、3か所において優先交渉権者を設定し、事業化に向けた協議や調整を進めている。				
区分	拡充	<公募対象地> 第1回公募：9か所 第2回公募：8か所（うち新規3か所、第1回からの継続5か所） ※第2回公募の優先交渉権者は5月頃決定予定			

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	—
10 交流を広げる基盤整備				事業開始年度	平成30年度
嶺南地域産業育成支援事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	嶺南地域の主要産業である観光産業の育成に資するため、嶺南地域への観光客の受け入れ体制の整備、情報発信等を行うことにより、観光客の増加を図る。				
事業内容	(1) マーケティング事業（標準外経費） (2) 地域おこし協力隊事業（政策的経費） (3) 若狭路魅力総合発信事業（標準外経費）				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	105,325	—	61,621		43,704
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	若狭湾観光連盟HPの表示回数（千回）	1,776	—	令和7年度
	活動指標	特集記事作成延べ本数（本）	17	—	令和7年度
事業評価	7年度の実績はR8年3月末に確定する予定。 敦賀・若狭エリア魅力発信ライター（地域おこし協力隊）を採用し、令和7年10月から観光情報等に関する特集記事の作成やSNSでの情報発信を行い、当該エリアの認知度向上や誘客促進を図った。 <事業実績（R8年1月時点）> ・特集記事作成本数：12本 ・SNS（インスタ）投稿本数：80本				
区分	継続				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和 8年度
3 楽しみを広げる（創造力）				経費区分	政策的経費
9 北陸新幹線効果を最大化・持続化				事業開始年度	令和3年度
⑨ 若狭湾サイクリングルート整備事業				事業終了年度	令和8年度
事業目的	若狭湾サイクリングルートのナショナルサイクルルート（NCR）への指定を見据え、走行環境や受入環境の整備、国内外への情報発信等を強化し、サイクリストやファミリー層などの誘客を図る。				
事業内容	(1) 若狭湾サイクリングルートの走行環境、受入環境の整備 (2) 国内外に向けた情報発信の強化 (3) サイクリングルートの整備・利用促進にかかる官民連携の協議会運営 (4) NCR指定を見据えた記念ライドイベント、キャンペーンの開催				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	87,163	—	21,369		65,794
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	シェアサイクル・レンタサイクル稼働台数（台）	21,800	—	令和7年度
	活動指標	サイクリングイベント等での出展回数（回）	8	8	令和7年度
事業評価	成果指標の7年度実績はR8年5月頃確定予定。 国内外でのサイクリングイベントに出展し、PRを行うことで若狭湾サイクリングルートの認知度向上を図っている。 〈事業実績〉 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSフォロワー数（Facebook, Instagram）：380名増加（R7.4.1～R8.2.24現在） ・その他、NCRへの指定を目指し、安全安心な走行環境の整備や受入環境の整備、国内外に向けた情報発信を実施。 				
区分	拡充				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度	
5 ともに進める（総合力）			経費区分	政策的経費	
17 「チームふくい」の行政運営			事業開始年度	令和6年度	
先進技術活用による地域開発プロジェクト			事業終了年度	令和7年度	
事業目的	県市町等と相互に連携して地域課題を収集し、民間企業の先進技術やノウハウを活用して地域課題解決を図り、地域活性化へと繋げる。				
事業内容	民間企業が取り組む地域課題解決のための実証事業への支援				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	33,764	—			33,764
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	地域課題解決件数（件）	10	17	令和7年度
	活動指標	補助金採択件数（件）	6	6	令和7年度
事業評価	県内外から先進技術を持つ企業を広く募集し、地域課題解決に資する6社を採択。福井商工会議所をはじめとした地域機関と密に連携し、地域事業者協力のもと17件の実証事業を実施。成果指標および活動指標の目標を達成。 新たな官民共創の仕組みによる実証事業者の継続的な活動や官民共創のさらなる促進のため、本事業は廃止とする。				
区分	廃止				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度
5 ともに進める（総合力）				経費区分	政策的経費
17 「チームふくい」の行政運営				事業開始年度	令和7年度
令和7年度将来世代応援知事同盟サミット福井開催事業				事業終了年度	令和7年度
事業目的	日本創生のための将来世代応援知事同盟が「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミット inふくい」を開催するにあたり、来県知事へ県の魅力を発信するため、おもてなしを実施				
事業内容	福井県を代表する観光地のPRや歓迎行事の実施、参加知事への記念品				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	358	281			281
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標				
	活動指標				
事業評価	サミット開催費用であるため、指標の設定は困難である。				
区分	完了				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度
1 個性を伸ばす（人材力）				経費区分	政策的経費
1 自らと福井の将来につなげる学びの推進				事業開始年度	令和7年度
大阪・関西万博子ども招待事業				事業終了年度	令和7年度
事業目的	大阪・関西万博において最先端の技術や世界の文化等に触れる体験を児童・生徒に提供することにより、将来への夢と希望の実感等を促し、国際的・科学的な学習機会の創出を図る。				
事業内容	県内すべての小中高の児童・生徒に、大阪・関西万博の入場チケットIDを配布				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	136,415	48,826			48,826
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	本事業を活用して万博来場した児童・生徒（人）	—	10,052	令和7年度
	活動指標	チケットID配布数（人）	—	78,528	令和7年度
事業評価	本事業は、万博訪問を希望する子どもが万博に行ける環境づくりを行うものであり、目標を設定することは事業趣旨にそぐわない。 教育庁で実施した校外学習へのチケット配布を含む、本県事業によるチケットの利用割合は14.5%であった。博覧会協会が発表した北陸・中部地域からの人口あたりの来場割合は9.9%であり、本事業が児童・生徒の来場の後押しとなった。				
区分	完了				

	未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度	
3	楽しみを広げる（創造力）		経費区分	政策的経費	
10	交流を広げる基盤整備		事業開始年度	令和7年度	
	外国人観光客への敦賀・若狭エリアPR事業		事業終了年度	令和7年度	
事業目的	京都から嶺南地域を巡り宿泊を促す周遊モデルなどの情報を発信し、外国人観光客の宿泊者数増加につなげる。				
事業内容	(1) 旅マエや旅ナカでの発信による京都からの周遊・宿泊促進 (2) 京都から嶺南を巡る宿泊旅行商品造成				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	7,696	—	3,848		3,848
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	福井県への訪日外国人観光客宿泊者延べ数(千人)	148	—	令和7年度
	活動指標	インフルエンサーの投稿に対するエンゲージメント数(件)	2,000	3,324	令和7年度
事業評価	<p>成果指標の7年度実績はR8年3月頃確定予定。 9月に台湾・香港からインフルエンサー各1名、台湾WEBメディアのライター1名、計3名を招聘し、京都から嶺南地域をめぐる2泊3日のファムトリップを実施した。</p> <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンサーSNS等投稿：計40投稿 ・台湾WEBメディア記事掲載：2本(日帰り・宿泊) ・チラシ2,000部(英語・繁体字)タリフ(日本語・英語)、販促ツール(日本語・繁体字)の作成 				
区分	完了				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度
3	楽しみを広げる（創造力）			経費区分	政策的経費
10	交流を広げる基盤整備			事業開始年度	令和7年度
	SNSを活用した敦賀・若狭エリア宿泊滞在促進事業			事業終了年度	令和7年度
事業目的	嶺南地域に宿泊した観光客を対象にSNSキャンペーンを実施し、宿泊者目線で宿の魅力をSNSで発信・拡散してもらうことで、関西を中心に関東や中京なども含め、嶺南地域の宿泊者増加を目指す。さらに、SNSでの反響やアンケート結果を分析し、宿泊事業者等に共有することで、宿泊施設のさらなる改修や整備意欲を喚起する。				
事業内容	(1) 敦賀・若狭宿泊SNSキャンペーンの実施 (2) 事務局運営				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,531	—	1,265		1,266
事業評価指標		内 容	目標	実績	備考
	成果指標	関西から嶺南地域への宿泊者数 (千人)	409	—	令和7年度
	活動指標	SNSキャンペーン参加人数(千人)	12	0.1	令和7年度
事業評価	7年度成果指標にかかる実績はR8年4月中旬に確定する予定。 本キャンペーン参加人数は目標達成には至らなかったが、関西から嶺南地域への宿泊者数は増加した。 参加人数の見込みが過大であったことと他のSNS活用キャンペーンとの調整等に時間を要して開始が遅れ、キャンペーン期間が短くなったことが目標未達成の要因と考えられる。 <事業実績> Instagram広告（表示回数）：約60,000回 アンケート回答数：91件				
区分	完了				

		未来創造部	未来戦略課	事業年度	令和7年度
3 楽しみを広げる(創造力)				経費区分	政策的経費
10 交流を広げる基盤整備				事業開始年度	令和7年度
敦賀・若狭アウトドアアクティビティブランド化事業				事業終了年度	令和7年度
事業目的	アクティビティの魅力アップや連携による発信力の強化により、ブランドイメージ「アウトドアアクティビティを楽しむなら敦賀・若狭」の形成を目指す。				
事業内容	アウトドアアクティビティを活用した観光誘客の実績が豊富な人物を地域おこし協力隊として採用し、個々のアクティビティの磨き上げやイベントの魅力アップ、一体的な情報発信などを進める。				
予算・決算額 (単位:千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,663	—			3,663
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	アウトドアを目的とした嶺南地域への来訪(%)	15	9	令和7年度
	活動指標	記事作成数(本)	8	5	令和7年度
事業評価	<p>敦賀・若狭エリア魅力発信ライター(地域おこし協力隊)を採用し、令和8年1月から特集記事の作成やSNSでの情報発信を行い、アウトドアアクティビティのブランドイメージアップを図った。8年度からは嶺南地域産業育成支援事業に統合する。</p> <p>目標未達成の要因:採用時期が8年1月にずれ込んだため。 外的要因:夏の異常な猛暑や冬の大雪等によりアウトドアアクティビティが敬遠されたと考えられる。</p>				
区分	整理統合	<事業実績> ・特集記事作成本数:5本 ・SNS投稿本数:5本			